

施策：	14	高齢者福祉の充実	財務コード	01030102-13-153
基本事業：	01	生きがいづくりと介護予防の推進	担当部	健康福祉部
基本事業の成果指標	生きがいを持っている高齢者の割合 新規要支援・介護認定者の割合		担当課	高齢者支援課
			担当係	高齢者福祉担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和43年度 ~	新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
敬老会を開催する自治会及び高齢者入所施設		筑紫野市敬老の日事業費助成金交付要綱に基づき、各自治会等で開催される敬老会に対し、7月31日時点で80歳以上の住民登録者一人当たり2,000円を各自治会等に交付し、その運営を支援するもの。 【手続き】自治会等から交付申請 交付決定 交付 敬老会実施及び実績報告書の提出				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		【開催状況】				
地域コミュニティ組織や高齢者入所施設と協働し、80歳以上の高齢者の長寿を祝う敬老会を開催することで、敬老の意識と高齢者福祉への関心の向上につながっている。		会の開催を原則としながらも、直前の感染症拡大、会場の狭小などにより敬老会を開催できない場合は、見守りを目的とした記念品配布も助成対象とした。				
4. 成果（簡易評価は未記入）						

成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
敬老会に参加した75歳以上の高齢者の割合	%	98.7	100	98.7	100			
参加者数	人	8,921	9,081	10,000	10,000			
5. コスト								
事業費	計	千円	17,816	18,152	19,660	20,500		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	17,816	18,152	19,660	20,500			
正職員人工数	人工	0.2	0.2	0.2				
正職員人件費	千円	1,563	1,605	1,676				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	19,379	19,757	21,336	20,500			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）	
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	【状況】敬老会の実施率は全自治会で実施された。 【原因】対象者数の増加に伴い、敬老会の催しが困難な地域もあるため、高齢者宅への訪問活動や世代間交流等各自治会で工夫して実施されている。高齢者の見守りの目を増やす機会となっている。

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）				
対象動向	増加	類似事業	なし	高齢者の状況把握ができるように見守りを目的とした記念品配布は、本事業と並行して行う必要がある。見守り活動が、民生委員から自治会・隣組活動に広がってきている。
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	あり	
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地あり	
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり	
成果向上余地	中程度			

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）	改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）	
敬老会について、見守り活動による記念品配布も対象としているため、成果指標の見直しを行う。 【成果指標】 敬老会実施率（該当年度の敬老会実施主体数（コミ協・区・自治会）/市が把握している敬老会実施主体数）	

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）	備考・特記事項 or 進行管理欄
高齢者の長寿を祝し、高齢者福祉の向上を図るため、敬老の日事業（敬老会）の事業費の一部を支給する事業として昭和43年度から開始。当初から昭和61年度までは食料費を助成していたが、平成2年度から助成金を交付へ変更している。平成29年度からは区長業務から自治会業務へ変更となった。	・昭和43～61年度：食料費支給 ・平成2年度から助成金交付（71歳以上一人当たり2,500円） ・平成13年度から年齢変更（75歳以上） ・平成17年度から助成額変更（2,400円） ・令和3年度から年齢・助成額変更（80歳以上2,000円）